紙つぶて

マキァヴェッリの情報収集

武田（たけだ） 好（よしみ）

外交官マキァヴェッリは情報の持つ重要性を認識していた。彼は「情報を得るためには、まず情報を与えることだ」と結論づける。ルネサンス期のフィレンツェにおいて、十四年余りの間、国の命運を左右する外交交渉の最前線で活躍した彼の言葉には説得力がある。

例えば、宮廷では宴会や賭け事でもてなして、皆と友人になっておくとよいという。マキァヴェッリが生きた時代とは国柄も社会状況も異なるのは承知の上で、彼が見極めようとした事柄を紹介したい。

彼は、責任を持って仕事をするようにと外交官の職に就く後輩を鼓舞する。そして、赴任先の国の皇帝の性状をつかむようにと助言する。

皇帝は自ら治めるのか、それとも他の者に任せているのか。吝嗇家（りんしょくか）であるのか、それとも金を惜しまぬ人であるのか。戦争を愛するのか、それとも平和を愛するのか。皇帝を動かすのは栄光か、それとも情熱か。民は皇帝を愛しているのか、それとも愛していないのか。領主たちは皇帝に満足しているのか、それとも不満であるのか。不満であるとすれば、皇帝に危害を加えることはできるのか、それともできないのか（書簡「ラファエッロ・ジローラミに与える書」より）。

大学四年生はそれぞれに就職先が決まって、新たな世界への旅立ちを待つばかりだ。いつかこれらの言葉が役に立つときが来るのだろう。

（静岡文化芸術大教授）

2020.2.22

2020.2.22
中日新聞（夕刊）P.1